SINUSOID NEWS

肝類洞壁細胞研究会ニュース

第 11 号
2008 年 6 月発行

目次

・第22回肝類洞壁細胞研究会（久留米）のご案内…… 上野隆登……Ｐ１
・トロムソのプログラム委員会報告およびポスター演題の募集…… 内藤　眞……Ｐ２
・編集後記…… Ｐ４

第22回肝類洞壁細胞研究会学術集会のご案内

当番世話人
久留米大学先端癌治療研究センター
上野隆登

第22回肝類洞壁細胞研究会学術集会を下記の要項にて開催致します。今回は11年ぶり 本研究会発足の地、久留米での開催です。本研究会の今後の発展に繋がるような企画を予定いたしております。皆様の多数のご参加、ご発表をいただきますようご案内申し上げます。

会期：平成20年11月29日(土)～30日(日)
会場：ハイネスホテル・久留米
（久留米市天神町1丁目６　TEL：0942-32-7211）
（西鉄久留米駅東口前、JR久留米駅より車で10分、福岡空港より車で50分）

招聘講演：
谷川久一先生（米国公益法人　国際肝臓研究所）
（仮題：肝類洞壁細胞研究の歩みと今後の課題）
恩地森一先生
（愛媛大学大学院医学系研究科先端病態制御内科学）
（仮題：樹状細胞と肝免疫）
鹿毛政義先生（久留米大学病院病理部）
（仮題：肝病態への脾臓の関わり）

演題募集：公募、一部指定
ワークショップ：
①ALD・NAFLDと肝類洞壁細胞
②肝再生と肝類洞壁細胞
③肝免疫と肝類洞壁細胞
④肝微小循環と肝類洞壁細胞
⑤血管新生と肝類洞壁細胞
一般演題：肝類洞壁細胞に関する演題

締め切り：平成20年9月1日(月)

募集要項：抄録を以下の要項で作成し、e-mailで抄録本文を添付してお送りいただきますようお願い申し上げます。
【抄録本文】
1．MS-WORDにてＡ４判用紙800字以内で作成下さい。
2．書き始めを下記の様に揃えて下さい。
(1) 抄録タイトル
(2) 演者名（共同演者を含む）、所属施設
(3) 抄録本文
3．抄録本文は【目的】【方法】【結果】【結論】の順に続けて記入して下さい。
＊ポイント・ページ設定は特に指定がありません。
【メール本文】メール本文に下記を記入下さい。
(1) 筆頭演者名・所属施設
(2) e-mailアドレス
(3) キーワード3つまで
発表形式：Macintosh, Windows (Vista) をご使用の場合はご自身のPCをお持ち下さい。

演題申し込み・問い合わせ先：
第22回肝類洞壁細胞研究会学術集会事務局
〒830-0011　久留米市旭町６７
久留米大学先端癌治療研究センター・肝癌部門
（事務担当：成澤妙子）
e-mail: narisawa_taeko@kurume-u.ac.jp
TEL：0942-31-7746　FAX：0942-31-7747

トロムソのプログラム委員会報告およびポスター演題の募集

新潟大学大学院医歯学総合研究科
分子細胞病理学分野
内藤　眞

国際肝類洞壁細胞シンポジウムは肝類洞を構成する細胞を取り扱う唯一の国際学会です。本シンポジウムはEddy Wisse博士（オランダ・ライデン大学）によって創設され、1977年から2,3年ごとに世界各地で開催されてきました。前回（2006年）は新潟で私が開催を担当させていただき、約100名の研究者が集いました。このシンポジウムでは開催4－5ヶ月前に国際組織委員が開催地に集い、プログラムを編成することになっています。私は日本代表委員として第14回国際肝類洞壁細胞シンポジウム（2008年8月31日－9月4日）のためのプログラム委員会に出席しました。今回はノルウェー北部、というより北極圏内にあるトロムソが会場です。

ノルウェー

首都はオスロですが、日本からの直行便はありません。ノルウェー国土は南北に長く、面積は日本と同じくらいですが、人口は470万人という少なさです。海岸線は北大西洋のスカゲラック海峡、北海、ノルウェー海およびバレンツ海に面しています（図１）。世界第３の原油輸出国であり、福祉国家の財政基盤になっています。税金は収入の40－50％もとられるそうで、産油国なのにガソリンは1リットル250円です。漁業、林業、農業、鉱業、船舶の製造、海運や北海油田に関連する産業が盛んです。漁業では特にノルウェーサーモン（アトランティックサーモン）や大西洋サバが日本に多く輸出されています。捕鯨国の一つでもあります。EUには加盟せず、通貨はノルウェー・クローネ（1クローネ23円）です。

図１　ノルウェー地図。トロムソは北極圏に位置する。

北極圏の町トロムソへ

トロムソは北緯70度に位置し、北極圏にある最大の町（人口65,000人）で「北のパリ」とも呼ばれています。医学系と海洋系のトロムソ大学は世界最北の大学です。

私は4月24日の正午前、スカンディナビア航空機に搭乗し、成田を出発しました。コペンハーゲン、オスロ経由でトロムソへというルートです。1日で着くためにはこの便しかありません。成田－コペンハーゲンが約11時間。待ち合わせと乗り継ぎで2時間半。オスロへ着きました。さらに1時間半後にトロムソへ乗り継ぎました。オスロ－トロムソ間は2時間。出発してから17時間の旅です。さすがに疲れました。

午後9時30分、雪に包まれたトロムソに着きました。日は沈みましたが、十分明るいのです。2週後には白夜になるということです。気温は0度で、恐れていたほどは寒くありません。道路の雪は除雪されていました。スメッツロード会長が雪解け水で泥だらけになった車で迎えにきてくれました。空港から10分でシンポジウム会場となるリカ・イスハウスホテルに着きました。船着場のすぐ近くにあって、建物は一見港に停泊する船のように見えます（図２）。全室からトロムソ湾を臨むことができます。

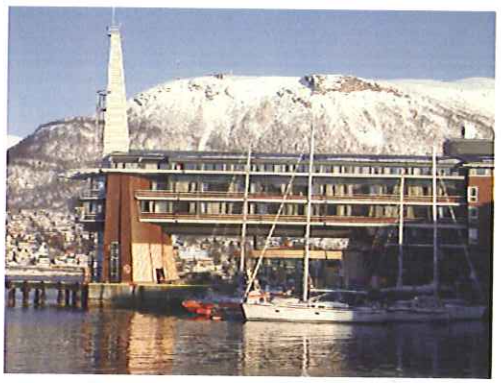

図２　トロムソ湾を臨むリカ・イスハウスホテル。

トロムソ大学

昨日までは寒くてひどい天気だったそうですが、4月25日朝は雲一つなく素晴らしい天気です。朝9時、タクシーでトロムソ大学に行きました。今回はスメッツロード、フェルナンド、塚本、ジャスケ、私の国際委員が全員揃ったことに加えて、前委員のマッカースキー教授が参加しました。

大学の構内には雪が沢山残っていました。建物は通路で連結され、悪天候や寒さにも困らないように作られていました。吹き抜けの屋根はガラスです（図３）。暖房を考慮した作りです。

図３　大学の屋根の一部はガラス張り。まるで温室。

プログラムの編成とポスター演題募集

早速プログラム編成会議が始まりました（図４）。全体構想の確認、抄録の評価、編集などが熱心に行われました。会議室のテーブルには資料が並べられ、活発な意見が交換され、2日にわたる協議の結果、下記のようなプログラム案ができあがりました。日本からの演題はすべて希望通りに採択されました。演題は最終的には100題近くに達するのではないかと思われます。その後、Travel awardの審査を行い、7名の受賞者が決まりました。

プログラムの詳細はホームページ（http://www.ischs2008.no/）でご確認ください。

なお、6月一杯はポスター演題を受け付けますので、ふるってご参加ください。

図４　会議室前で。左から塚本、マッカースキー、フェルナンド、スメッゾロード、ジャシュケの各委員と筆者。

Scientific program

Sunday–August 31, 2008
15:00 Registration at Rica Ishavs Hotel
19:30 Welcoming remarks: City Hall of Tromso
19:45 Welcome reception in the City Hall of Tromso

Monday–September 1, 2008
8:30 Opening
8:45 Key note address by Eddie Wisse
9:30 Session I: Endothelial Cells: Endocytosis.
13:10 Lunch and poster viewing
14:30–16:00 Session II: Endothelial Cells: Cytoskeleton
16:00 Coffee break
16:30 – 17:30 Session III: Endothelial Cells: Guided visit to Polaria

Tuesday–September 2, 2008
9:00 Session IV: KC
12:20–13:00 Business meeting
13:00 Lunch
Excursion

Wednesday–September 3, 2008
9:00 Session VI: Stellate cells: signalling and gene regulation.
10:50–11:20 Coffee break
11:20 Session VII Stellate cells: signaling contd
13:30 Lunch
14:30–15:30 Poster session
15:30–17:30 Session VIII: Stellate cells: modulators of liver fibrosis
20:00 Conference gala dinner at Rica Ishavs Hotel

Thursday–September 4, 2008
9:00 Session: Stellate cells: Comparative morphology and methods
10:00–10:30 Coffee break
10:30 Session X: Immunology/Tumor
12:10–12:30 Closing remarks

将来構想

それが終わってほっとする間もなく、このシンポジウムの今後に関わる重大な案件が討議されました。概要は以下のようなことです。

これまでこのシンポジウムは創設者Wisse博士の強い指導力によって開催されてきました。しかし、退任された後はそうは行きません。きちんとした規約のある組織を作っていくことが求められます。2010年のアメリカでの会までに新たな組織を作ることに意見が一致しました。また、日本の代表委員の白鳥先生の後任として河田則文先生が選出されました。国際組織委員会の申し合わせでは、シンポジウム開催者はその2年後に交代することになっています。私とフェルナンド教授がそれに該当するのですが、この時期にすぐ交代しないで、新しい路線ができてから新任者へ渡したほうが良いということになり、しばし留任となりました。このシンポジウムは大きな変革を遂げることになりそうです。

お土産の決定版

すべての打ち合わせが終了し、何か土産に良いものはとマッカースキー教授に聞きますと、スモークサーモンが一押しとのことでした。教えられてホテルの近くの魚屋に入るといろいろな魚が並べられていましたが、ひときわ目立つのがAtlantic salmonです。鮮やかなピンクのスモークサーモンです（図５）。大きいサーモン1匹（1.5Kg）が200クローネ(約4,500円)。日本ではスライスで少量買っても高価なのに、これは安い。私も塚本先生も即購入しました。１匹を2つに切り、真空パックにしてくれます。ホテルの部屋の冷蔵庫に保管しました。お土産はこれで決まりです（肉と違って魚の加工物は持ち帰れます）。

図５　スモークサーモンと塚本先生。

見事な景観

午後はスメッズロード教授がトロムソを案内してくれました。ロープウェーで山頂に登ろうとしました。明るいのでそんな時間とは思えなかったのですが丁度午後5時、終了時間でした。ところがスメッズロード教授は係員に頼んでＯＫになったのです。ロープウェーから見下ろす景観は素晴らしいの一言です（図６）。トロムソが島だということがよくわかりました。9月に来たら雪はなく、緑一色でしょう。今回と比べてみたいと思います。

図６　ロープウエーの山頂駅にてトロムソ島を背景に。

最後の晩餐

最後の夜はスメッズロード教授の自宅で奥様の手料理をご馳走になりました(図７)。キャビアの前菜、鮭のフライに舌鼓を打ちました。本当にノルウェーは魚の国です。今回賞味できませんでしたが、鯨料理も楽しめます。アザラシ、となかいの肉も美味だそうです。その他、いろいろな北極海の魚があります。日本人にとってはフィヨルド、氷河など自然の景観とともに食事も大変魅力的な国です。

図７　スメッズロード教授宅でのディナー。カラフルなキャビアの前菜。左から2人目が奥様。

トロムソでも1,2月にはオーロラを見られるとのことです。しかし、光が弱いので、町の灯りが邪魔になり、人里離れた所に出かけないとみられないのだそうです。9月のシンポジウムの時期に雪はなく、緑が映えてまた美しい風景が楽しめることは間違いありません。しかし、寒くてもオーロラのみられるトロムソらしいトロムソも是非見てみたいという思いが募りました。

最後にスメッズロード会長から日本の皆さんへのメッセージをお伝えします。

「ポスター演題は6月30日まで受け付けていますので、これからでも申し込んでください。9月にはシンポジウムとともにトロムソの大自然と味覚を堪能してください。皆様を心から歓迎いたします」

編集後記

次回の研究会は、10年ぶりに久留米の地で行われます。多くの方々が来られることを期待しております。

（谷川久一）

SINUSOID NEWS 編集部

編集長：　和氣健二郎

編集委員：　谷川久一、内藤　眞

107-0052 東京都港区赤坂 8-10-22

(株) ミノファーゲン製薬 肝臓リサーチ・ユニット内

FAX: 03-3402-6397

E-mail: kenwake@m2.gyao.ne.jp

印刷：肝類洞壁細胞研究会事務局（福田史子）

839-0864 福岡県久留米市百年公園１番１号

久留米リサーチセンタービル研究棟２階

米国公益法人 国際肝臓研究所内

TEL: 0942-31-1231, FAX: 0942-31-1232

E-mail: tanikawa@kurume.ktarn.or.jp